

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

2020年4月吹田市が中核市へ移行 西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市が 連携する「NATS」誕生

吹田市が2020年4月に中核市へと移行し、同時に全国でも初めて4つの中核市(ほか西宮市・尼崎市・豊中市)が隣り合うことになる。今回の移行を機に、吹田市は大阪府からの権限移譲を進め、市民サービスの向上を図ると共に、4市が府県の枠組みを越えて連携する新たな“都市間ネットワーク”「NATS(ナッツ)」の形成を目指す。

中核市とは、政令で指定する人口20万人以上の市で、事務権限を強化し住民の身近なところで行政を行うことができるようにした都市制度。現在、府内では高槻市、東大阪市、豊中市、枚方市、八尾市、寝屋川市の6市が該当する。中核市の要件を満たす人口約37万人の吹田市は、多様化・複雑化する市民ニーズや超高齢社会の課題に柔軟に対応できるまちづくりのため、中核市移行を目指してきた。2017年には中核市移行推進本部を設置し、市長を含めて議論を重ね、市民との意見交換会や出前講座なども定期的に実施してきた。

主な市民サービスへの効果は①地域の保健衛生の推進②行政サービスの効率化・迅速化③特色あるまちづくりの推進の大きく3つ。中でも特に①に関して変化

が大きいという。これまで市の保健衛生を担う機関は、健康相談や保健指導などを目的として保健師や看護師、栄養士などが配置される「保健センター」だった。そこに中核市などに設置される「保健所」が加わる。保健所には医師や獣医師、薬剤師などの専門家が新たに配置され、これら専門家の判断が必要な食中毒や感染症の恐れがあった場合、今後は市で一括して、迅速な対応が可能となる。また平常時においても、専門家の知見を活かすことで、きめ細かな地域保健、健康づくり施策の推進ができる。②については、これまで市への申請後にさらに府の審査が必要だった身体障がい者手帳の交付や、ひとり親家庭に対する修学資金などの貸付について時間が短縮できる。

今回、新たな取り組みとして注目されて

いるのが、西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市が連携する「NATS(ナッツ)」だ。それぞれが「関西住みたいまちランキング」で上位に位置するまちであり、交通の利便性が良いという立地を生かした連携などが考えられる。その第一歩となるのが2020年1月のキックオフミーティング「NATS 0(ナッツゼロ)」。各市長が一堂に会し、新たな都市間のネットワーク形成の方法を探る。



「NATS 0」ポスター

MCに吹田市在住の朝日放送テレビアナウンサー・堀江政生さんを迎え、対話を“見える化”する「グラフィックレコーディング」を用いて、来場者にその場の熱量を伝えながら、効率的な議論の拡散と取束を図る。「NATSの方向性についてはまだ何も決まっておらず、今回のミーティングが本当のスタートです。行政の話だけではなく、市民の皆さんが身近に感じられるような、文化・芸術やスポーツの繋がりも今後あるかもしれません。ぜひ関心を持っていただければ」と担当者は話している。

中核市連携シンポジウム 「NATS 0」(ナッツゼロ)

2020年1月25日 大阪学院大学2号館(吹田市岸部南2)
9時45分～12時 入場無料・申し込み不要
問い合わせ先
吹田市中核市移行準備室 06-6155-5782

新しい年の運勢を占う ユニークなおみくじ

1年の方向性を示してくれるおみくじは、運試しとしての楽しみや、その吉凶を自分がかみ取った運氣として理解し、心新たにできる機会も与えてくれる。多くは紙に書かれたものだが、中には一風変わったものも。兵庫、大阪にある面白いおみくじを紹介しよう。



西宮神社「鯛みくじ」

全国的にも有名な十日えびすの「福男えらび」で知られる西宮神社(西宮市社家町1)は正月限定で、えびすさまが抱える鯛がモチーフの「鯛みくじ」(初穂料300円)がある。コロンとした鯛のフォルムが可愛らしく、子どもや若い世代中心に親しまれている。内容は商売限定ではなく、その年の運勢全般を占ったもので、例年十日えびすの期間中に終了するとか。2019年1月から登場した「大吉」以上の福がある「大福」という運勢の鯛みくじ版が2020年の正月から開始。外見はほかの鯛みくじと

同じで、内面は一般のおみくじのように金色になる予定だ。元旦に用意される5万個がなくなったら、通常のおみくじ(初穂料100円)を。

生田神社「水みくじ」

地元神戸っ子から「いくたさん」の名で親しまれる生田神社(神戸市中央区下山手通1)には、恋愛運を占う「水みくじ」がある(初穂料300円)。おみくじを受け取ったら、パワースポットとしても有名な社殿北側の生田の森へ。池の水におみくじを浸すと文字が浮かび上がる。通常の吉凶のほか、

願い事、色、縁談、場所、総合恋愛運が書かれていて、持ち帰るか結び所に結ぶこともできる。外国人観光客用に英語版も用意されている。恋みくじやハート型の絵馬、パートナーと共につけられるプレスレット型のお守りなど良縁を結ぶアイテムも豊富だ。



勝尾寺「ダルマみくじ」

「勝ちダルマ」の寺として知られる勝尾寺(箕面市)では、恋愛運を占う「ダルマみくじ」(初穂料500円)が人気。おみくじが入った小さなダルマが桶の中から選べる。全て手描きで作られ柄や顔が違うのでお気に入りを見つける楽しさもあり、持ち帰ることも可能。境内に並べ置いたものは年末にまとめてお炊き上げする。現役プロボクシングの世界チャンピオンや、今夏の全国高校野球選手権の際には優勝校が試合前後に参拝。スポーツの必勝祈願として様々な分野のプロ選手や学生の参拝者も多く訪れる。